

奈良市西福祉センター「防災講演会」開催報告

- 1 日時：平成 23 年 11 月 29 日（火）10 時～12 時
- 2 場所：奈良市西福祉センター（奈良市百楽園 1-9-13）
- 3 講師：NPO 法人都市災害に備える技術者の会（神戸防災技術者の会）片瀬範雄
奈良市市民安全課課長補佐 森嶋一也
（陪席）NPO 法人都市災害に備える技術者の会 伊藤東洋雄 清水煌三
（陪席）奈良市市民安全課 太西一正
- 4 対象者：60 歳以上の奈良市民とその家族
- 5 題名：「あ！地震だ。その時のために」
- 6 内容：◇阪神・淡路大震災の体験談（講師 片瀬範雄） パワーポイントによる説明
 - 1) はじめに
 - ①ボランティアに行かれた人が 1 名あり
 - ②悲しかったこと、悔しかったこと、苦しかったことを伝えるのでそのような気持ちにならないよう備えて欲しい
 - ③奈良県にも推古天皇時代、そして 150 年前に 500 名が亡くなる伊賀上野大地震は発生している
 - ④地震など無いと考えていると、備えが出来なくなり被害を大きくする。神戸が正にその状態であった。
 - 2) 「震度 7」その瞬間は
 - ①直後 10 秒もかからず家の倒壊するビデオ（E-デフェンス）
 - ②被災写真（建物、インフラなど）
 - 3) 犠牲者の年齢構成は
 - ①阪神の時死亡者は 60 歳以上が 59%、東日本でも 50 歳以上の死亡率が高い
 - ②経験が逆に思い込みとなり、事前の備えや避難を遅らせて、犠牲となる
 - 4) 奈良県を襲う地震の予測は
 - ①地震の発生メカと、海溝型と内陸型との違い、地震の大きさとそれに対応した奈良市で備えることが必要な項目
 - 5) 地震に備えて
 - ①倒壊家屋の下からの救出には近所の助け合いが一番大切（80%以上は近所の人）
 - ②耐震診断、耐震補強のお願いと新耐震基準が命を守った事例紹介
 - ③家具の置き方で助かった事例紹介
 - ④日頃の備えはたいそうなことと考えず、日常生活の中で備えは出来る（避難袋に食糧保存などと体操に考えると億劫になり、しなくなる）

＝休 憩＝
 - 6) その時の市民生活は
 - ①避難所の運営で助けて貰ったのは地域の方がリーダーとなった避難所であり、被災者にとっても行政がするより親切丁寧
 - ②要介護者の対応を日頃からしていく大切さ、訓練なくして救援は出来ないし、要援護者も参画（ただ単に参加するのではなく）していく姿勢で少しずつ、ゆっくりと焦らず行うことが必要
 - ③行政は人数的にも限界があり、助けて貰えるなど思わず、近所との連携を
 - ④華々しい行政の救助訓練は行政が全てを行うように市民を思わせ、共助の気持ちを失わせるように思うが、ほんとに大切なのは共助である。

7) 訓練が命を守った（東日本大震災から）

- ①釜石東中学と鶴住居小学の日頃の訓練が生きた避難で600名の生徒が1人も犠牲にならなかった事例などの報告
- ②石巻市大川小学校の悲劇を悲劇とせず、公共施設の立地など行政や地域への警告と考えなければならないことの報告

8) 自律と連帯

- ①震災の悲惨な状況を克服したのは被災者自らが『自律』したことから神戸の復興はできたと考える
- ②公助が行う事は限界がある、地域が地域の人を助ける共助の力は大きい、自らの命は自分で守る自助の気持ちを持った自律心、そしてそれらが連帯して日頃から災害に備えた思いを持った生活が大切

◇家庭での備え（講師 森嶋一也）

1) 奈良市の震災に対する取組みについて

冊子『わが家の震災対策』～巨大地震の被害に備えよう～（奈良県）に基づき説明。

2) 家具の転倒防止などについて（DVD等）

総務省消防庁監修のDVD「今すぐできる！家庭防災 家具等の転倒防止対策」の鑑賞と説明

7 質問と回答

Q：神戸の東灘や灘の復興を見ると素晴らしいがその経験をどのように東日本大震災に水平展開しているか。

A：（片瀬）①神戸のような大都市と名取市のような人口7万人程度の漁業を主産業とする都市との違いがあり、即神戸の方法が全てベストとして採用出来ない面もある。

ただ地域にあった復興を立案するには過去の事例として参考にさせていただきたいと神戸市の職員も参加している。

②ただ、神戸の復興方法は強引だとの批判が東京ではあるなかでの発信であることから、余り見えていない点もあることを理解願いたい。

③神戸からは復興計画だけでなく、避難所の運営などにも派遣している。

④また、派遣先から質問を受ける彼らを後方支援することも行っている。

Q：廃校になった奈良工業高校が避難所に指定されていないのはどういう理由か。住民としては近くでもあり、避難所に指定して欲しい。

A：奈良工業高校の所有者は奈良県となりますので今後奈良県がどのような利活用をされるのか確認する必要があります。

奈良市内に一次避難所（小中学校学校等が奈良市立の施設）117箇所、二次避難所として高校や国立大学なども不足する避難所を補完しているよう協定もしているところもある。

この回答に対し、質問者から「一次避難所」や「二次避難所」とは何か。という質問があり、何れにしても各地域の住民に各自の避難所が何処であるかを再度周知する必要があるのではないかということになった。

Q：奈良盆地東縁断層帯が以前はM7.0であったが、M7.5に変わっている。何故か。

A：平成9年以前の奈良市地域防災計画では、地震想定規模M7.1となっておりましたが、平成7年1月に発生した阪神淡路大震災を教訓として平成16年10月に公表されました第2次奈良県地震被害想定調査報告書によりM7.5に変更になっております。

8 その他（感想など）

講演を熱心に聞いていたのが印象的であった。

居眠りする人は皆無で、参加者36名の内18名がメモを取っていた。

講演終了後も質問に来ていた人がいた。

（記録：伊藤 補足：片瀬、森嶋）



講演をする片瀬講師



熱心にメモを取る参加者



講演に聞き入る聴講者



質問をする参加者



講演をする森嶋講師



質問をする参加者



質問に答える森嶋講師



講演終了後も質問する参加者